

大崎生涯学習センター（パレットおおさき） 屋上天文台ガイド

プラネタリウム棟の屋上にある天文台には口径30cmの反射望遠鏡が設置され、さまざまなイベントで生きた星の光を楽しんでいただいています。また地上19mから見渡す景色や夜景は大変美しく、大崎を一望することができます。

月に一度行われている「星をみる会」や「昼間の星をみる会」で屋上や天文台を開放します。ぜひお越し下さい。



この天文台は国際天文学連合（IAU）に登録され、彗星や小惑星、新天体の発見や確認・追跡などの本格的な天体観測も行われています。

IAU天文台コード D92 Osaki

北緯	38° 33' 55.82"
東経	140° 56' 46.97"
標高	40m

30cmカセグレン式反射望遠鏡

口径	: 300mm
焦点距離	: 3572mm (レデューサー使用時: 2100mm)
口径比	: F/11.9 (F/7.0)
集光力	: 1837倍
分解能	: 0" 39
限界等級 (眼視)	: 14.2等



この望遠鏡には直径30cmの「鏡」が使われており、人間の眼の1837倍もの光を集めることができます。14等級の天体を見る性能があります。さらに天体専用のデジタルカメラ(冷却CCD)を使えば19等級の非常に暗い星も観測することが可能です。同架されている6cm屈折望遠鏡には、特殊なフィルターを使った太陽観測カメラが搭載されていて、太陽のプロミネンスやフレアなど激しく活動する太陽の姿を観測することができます。

*裏面は天文台学習のためのワークシートになっています。

屋上天文台学習ワークシート

見学した日 _____ 年 _____ 月 _____ 日

_____ 年 _____ 組 _____ 番 名前 _____

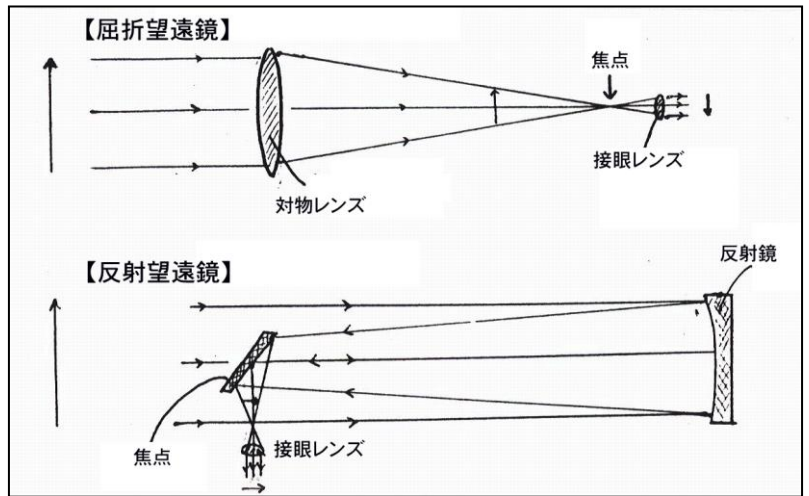
天体望遠鏡は、遠くにある天体（太陽や月・星、星雲星団など）を、くわしく観察するための機械です。鏡やレンズを使って光を集め、大きく拡大したりして詳しくみることができます。望遠鏡の種類は大きくわけて次の2つがあります。

☆屈折式望遠鏡：

レンズを使って光を集める

☆反射式望遠鏡：

鏡を使って光を集める



望遠鏡は、光を集めるレンズや鏡の直径（口径）が大きいほど性能が良くなります。

より多くの光を集める力を「集光力」、より小さなものをくわしくみる力を「分解能」といいます。望遠鏡の倍率は、目でのぞくためのレンズ（接眼レンズ・アイピース）を交換することによって、自由に変えられるしくみになっています。倍率が高いほどよく見えると思われがちですが、むやみに高倍率にするとかえって見づらくなってしまいます。

まとめよう

天体望遠鏡には、レンズを使って光を集める（ ）式望遠鏡と、鏡を使って光を集める（ ）式望遠鏡の2種類があります。

望遠鏡の性能は、倍率ではなく、レンズや鏡の（ ）によって決まります。口径が大きくなれば、光を集める（ ）や、細かなものをみる（ ）などの性能がよくなります。

（ヒント・・・屈折・反射・口径・集光力・分解能）

★次回の星をみる会
をチェックしよう

月 日
()

時間 19:30～20:45
テーマ ()

（質問・問い合わせ：大崎生涯学習センター 遊佐・松浦 電話 0229-91-8611）